

海外銅など、中国の春節明け後の動向がカギ

スクラップ
プ需給
メーカりの買い気は薄い

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

一月前半は人民銀行による元買で元安が一服した事、一五年の中国銅輸入が一五・二%増だった事などのプラス材料もあったが、年初

のサーキットブレーカー問題で上海株が三、〇〇ドル近辺まで暴落したこと、シエールガス問題に加え、中国の景気後退を受けて原油が三〇ドル台まで下落したこと北朝鮮、初の水爆実験に成功と発表したことなどを受けてLME銅相場はDOWN、一月十五日時点で四、三六五・五ドル(セツル)と月初価格より三三六・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、NY原油が一時二六ドル台まで下落した事、上海総合指数が前日比九六・二一安の二、八八〇・四八と大幅ダウン。昨年来の安値更新。売買代金も二、〇二七億元と急減。二〇一四年十二月九日以来一年一か月ぶりの安値になった事などのマイナスマaterialもあったが、日銀がマイナスマ金利を導入した事、ECBのドラギ総裁が追加の金融緩和の可能性を示唆したこと、原油が三〇ドルに上昇したことを受けてLME銅相場はUP、二月三日現在、後半スタート価格から二九四・五ドルUPの四、六〇五ドル。銅建値六〇万円のスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)

一一・二五→一二・二〇七(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比二・三%減の七六万七、〇五二台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・二%増の二二万七、六六一台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比一・三%減の七万五、四五二戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が一三・八%減の二万八、四八八t、スクラップが二八・四%減の二万一、二四七t。

輸入

輸入は電気銅が前年比二一七・九%増の六、五九九t、スクラップ一八・九%増の六、五七二t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比七・九%減の六万〇、六一〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比二・六%減の五万八、四〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

十二月の四輪車生産台数は七四万九、六九三台で、前年同月の七六万七、〇五二台に比べて一万七、三五九台(二・三%)の減少となり、二カ月ぶりに前年同月を下回った。

十二月の国内需要は三六万九、四六〇台で、前年同月比一四・五%の減少であった。このうち、乗用車三〇万七、八五九台で前年同月比一四・六%の減少、トラック六万〇、四八五台で同一四・五%の減少、バス一、一一六台で同三四・6%の増加。

輸出は前年同月比八・一%の増加。(実績)

【自動車販売】

一月の国内自動車販売台数(軽除く)は二万三、七、六六一台で前年比〇・二%増。三カ月連続プラス。このうち、乗用車一・三%増、貨物八・七%減、バス三二・二%増。

【住宅着工数】

・平成二十七年十二月の住宅着工戸数は七万五、四五二戸で、前年同月比で一・三%減となった。また、季節調整済年率換算値では八六・〇万戸(前月比二・二%減)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となった。季節調整済値についても、前月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となった。

・住宅着工の動向については、全体として平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなっている。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

(六面へ続く)

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比七・九%減の六万〇、六一〇tと、一〇カ月連続マイナス。このうち、内需五万〇、八九二tで六・二%減と一四カ月連続マイナス、輸出九、七一八tで一六・三%減と九カ月連続マイナス。品種別では、銅条一万八、一二二tで一三・一%減と八カ月連続マイナス。黄銅棒一万四、九五八tで一・八%増と二カ月連続プラスであり、底入れの兆し？

【電線】

前年比二・六%減の五万八、四〇〇t。このうち、国内〇・六%減、輸出が六三・七%減。部門別では、通信一〇・一%増、電力八・三%減、電気機械一・七%減、自動車〇・八%減、建設電販二・三%増、その他内需一一・五%減。

【輸出】電気銅輸出が前年比一三・八%減の二万八、四八八t。銅スクラップは二八・四%減の二万一、二四七t。

【輸入】電気銅が一七・九%増の六、五六九t。スクラップは一八・九%増の六、五七二t。

【見通し】

・自動車は生産が二カ月ぶり減少の二・三%減。一月の国内販売台数が前年比〇・二%増。生産が二カ月振りマイナス、販売が四カ月連続プラス。生産が再び減少となった。販売の方が微増ではあるが四カ月連続プラスに。ただ増加の幅が縮小しており注視が必要。

・住宅着工の動向については、

全体として平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなつている。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は一〇カ月連続マイナスの前年比七・九%減。需要の多い銅条が八カ月連続マイナス。黄銅棒が二カ月連続プラス。輸出も前月に続き減少が続く六カ月連続二桁マイナスの一六・三%減。黄銅棒が二カ月連続でプラスに転じており今後の回復が望まれる。

・電線 輸出が二桁減少。内需も減少。

・銅輸出は生産減少による国内玉の不足から地金、スクラップ共に内需の発生難を受

けて減少した。

・銅輸入は、生産減少による国内玉の不足から地金、スクラップ共に内需の発生難や一時的な円高を受けて増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が六〇万台に載った事から一次問屋への売り込みはあった。

ただ円高をうけて電気銅を多く輸入しておりそれが使用されるまでメーカーの買い気は薄く今月内は需給は緩いのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は、春節明けの中国動向と原油の生産調整問題に左右される。

春節明けの中国の動向に関しては、上海株がデッドラインと言われた三、五〇〇を大きく下回る二、七〇〇付近で推移しているにも関わらず、有効な対策を未だ打てないのが現状。新たな対策が出る可能性もそれほど低く現状維持ではないかと。

原油減産問題に関しては、採算ラインと言われる四〇ドルを大きく下回る三〇ドル近辺で推移しており、OPEC、非OPEC、ロシアなどとの減産合意が取り揃えられるも、サウジとイランの国交断絶が修復する見込みもなく、今月中の減産合意はないのではないかと。

それらを踏まえた二月の銅価格は、中国が新たな株価対策などを行い、原油の減産合意が行われた場合、一月高値の一段高四、七〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、五〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合一月もう一段安値の四、三〇〇ドル。

為替は、ECBも追加金融緩和に関して日本ほど積極的でない事。人民元流出に関して案の対策もないことが考えられる。

それらを踏まえ予測は、上値はECBが追加金融緩和をした場合新興国からの資金吸い上げに伴う対ユーロでの円高や人民元の流出加速からの一七七円台を予測。下値は金融緩和を行わず、人民元流出対策を行った場合一二二円台。銅建値に関しては五五〇〜六二〇円程度と予測している。

COMEX銅在庫

三日

六五、五五二トン

一一四トン増加